

水稻の簡単直播き栽培

2005年の直蒔き栽培

紙マルチ栽培法など、鳥取大学農学部の実験室では、水稻の省力化、無農薬有機栽培に長年取り組んでこられて数々の実績を残されており、除草剤を不用にするこの研究室から生まれたとの事です

昨年も研究室の水稻栽培実験で私が考案した「流しびな農法直播」を40坪程度の実験栽培でやって頂いたのですが、種籾を包む材料をメッシュ状の紙にした事が原因と思われる、発芽不良と鳥害などで成功しなかったようです。

今年も規模が半分程度になりますが再挑戦していただける事になりました。

昨年は新聞紙の加工だけでしたが、今年は種籾を麻メッシュで包んだ流し雛直播きセットの完成品を800枚送りました。

今年は良い結果が出てくれれば良いのですが。

地元での栽培報告

地元春日部市の尾堤さんのタンボで今年も「流しびな農法直播」の実験栽培をやらせて頂ける事になりました。

昨年の失敗点を次のように改良してやっていきます。

改良点

- 1、古代米の「黒米」を栽培（このタンボではどうしても栽培期間が短くなってしまふ為の対策）
- 2、流し雛セットを強制的に地面に密着させる（完全に水抜きが出来ない場合や自然密着前の雷雨や強風対策）
- 3、米糠の散布（より除草効果を高める為）
- 4、水に浮かせて使うセット移動用定規の使用（風がない場合や風向きが変わった場合の対策）
- 5、流し雛セットサイズの拡大（昨年は新聞紙から3枚取りでφ23cm、今年は2枚取りφ27.5cmで省力化）

これらを考慮しながら栽培実験をやっていきます。

5月28日（土）快晴、風弱い

地元タウン誌で古代米100株オーナー募集の記事を載せてもらったのですが、応募者無しでした。お友達の久保田さんと、散歩中に飛び入り参加の親子さんとで流し雛の播種を行いました。

飛び入り参加の女の子は小学校4年生で、先日学校での田植え体験をしたばかりだったとか。

「こんな田植えがあるんだ、疲れないしおもしろい」と言って最後まで手伝ってくれました。

いろんな虫や小さな魚も見られるよと説明すると「時々見に来るからね」
お母さんも「秋の稲刈りや来年の100株オーナーにはぜひ参加したい」と言って手を振って帰っていきました。



水を加えて湿らせた米糠を全体に散布状態。流し雛の除草効果をより高める為。水が多少濁る程度でした。



流し雛セットを一枚ずつ水上から流し入れます。
親子で流し雛の直播き体験



流し雛セットを全体に広げた後に水を抜き、特製の金網ローラーでゆっくりと上からかけて地面に密着させてみた



手作り特製金網ローラー
100%ショップで買った回転テーブルを使い作ってみました。



新聞を密着させる為にローラーをかけた事が雑草（コナギ）の種をまきあげてしまったようでこの状態です。



コナギだけが異常発生です。稲がもう少し伸びてからでないと田んぼに入れず除草が出来ません。



やっと入れる状態になって草取りです。左側は除草前、右側は除草後です。養分を大分吸われてしまったかも。



雑草（コナギ）を取って集めました。バケツの大きさから比較しても結構あるのが分るでしょう半日かかりました。



直播き後、約2ヶ月
除草後は順調で分茎も進みこの状態
もうすぐ穂が出てくるはずです。



約2.5ヶ月
黒米の稲穂がほぼ出揃いました。



約3ヶ月経過
黒米の穂先が下がり始めました。



右側が流し籾直播き古代米の黒米です。
左側は一般田植えのササニシキ米です。
葉の色や穂の色がこんなに違います。



9月中旬
手作業での稲刈り隊募集の看板を設置
流し籾直播き栽培の記録写真も掲載



9月下旬
周りの田んぼはとっくに刈り取り済み
直播きの黒米はまだ青々としてます。



田んぼの隅に杭を立てて刈り取った稲
の把を穂先を外に出して重ねておき
天日での自然乾燥です。

この流し籾直播き栽培法で収穫した黒米は約35キロほどでした。知り合いに差し上げて食べて頂きましたが、有機栽培と無農薬と自然乾燥からが大変好評でした。

たんぼを貸して頂いた農家の週末フリーマーケットでも試験的に販売してもらいましたが、こちらも他の黒米より美味しいとやはり好評です。

但し、農家の方からは黒米の脱穀は色が機械の内部に付いてしまうので、通常の米の脱穀機械と同じ物を使用する事ができないとの事で「粃」の状態です。

やむなく、コイン式の精米機で（本当はいけないことなのですが）少量ごとに場所や日にちを替えて脱穀をしたものですので、黒米の本来の色より薄くなっております。